
長野市立博物館

紀 要

第 21 号
(自然系)

2020年

長 野 市 立 博 物 館

目 次

天文遊暦家朝野北水の松代藩における講義内容	陶山 徹	1
大型恐竜ニューデザインコンテストの開催とその経過について(事業報告)	成田 健・畠山幸司・北澤宗一郎	7

天文遊歴家朝野北水の松代藩における講義内容 The course content of Peripatetic Astronomical Educator, Asano Hokusui at Matsushiro Clan.

陶山 徹*
Toru Suyama*

* 長野市立博物館 〒381-212 長野県長野市小島田町1414
Nagano City Museum, Oshimadamachi, 1414, Nagano 381-2212, Japan

要旨：真田宝物館所蔵の「朝陽館漫筆」には、江戸時代の天文遊歴家朝野北水が松代に滞在し講義したことが記されていたが、実際に松代に残された資料がなく、その詳細については知ることができなかった。しかし、筆者は、松代藩における北水関連の資料として、「二十八宿之図(真田宝物館蔵)」と「北水先生口授胸中曆(国文学研究資料館蔵)」を発見した。これらの資料は、松代での北水の講義内容をうかがい知ることができる手掛かりとなるものと考えられる。本研究では、まず、「朝陽館漫筆」、「二十八宿之図」、「北水先生口授胸中曆」の3つの資料を他地域にある北水関連資料と比較し、これらの資料が北水関連のものであると結論付けた。その上で、資料から松代藩における朝野北水の講義内容を可能な限り復元した。曆や星座に関するものの他、太陽、月、惑星の望遠鏡による見え方などが講義内容に含まれていることがわかった。さらに、これらの資料から、松代藩士である岡野石城とその息子である岡野元札が北水の講義を聴いていたことがわかった。

キーワード：天文学史、朝野北水、近世、松代藩

1. 朝野北水について

江戸時代の終わりごろ、全国を遊歴し天文を教えて歩いた男がいた。その名を朝野(浅野)北水(宝暦8年(1758)~?)という。北水が生きた時代は、西洋の科学技術の影響が強くなってきた頃である。

朝野北水の経歴については中村(2007)に詳しい。前半生は戯作者として黄表紙を書いていた。その中には、葛飾北斎が画を描き、北水が文章を書いた作品もある。後半生は天文遊歴家として各地を訪ねて歩いていた。

中村(2007)は、朝野北水の資料が長野県に多く残っていると指摘し、関連資料を紹介している。渡辺・澤田(2011)は各地に残る朝野北水の資料を紹介し内容ごとに分類している。陶山(2017)は、長野県内に残る資料の中で北水関連のものを同定し、その特徴について報告した。

筆者が長野県内の資料を調査するうちに、北水関連と思われる資料を2点発見した。真田宝物館所蔵の「二十八宿之図」と国文学研究資料館所蔵の「北水先生口授胸中曆」である。加えて、中村(2007)が報告した真田宝物館所蔵の「朝陽館漫筆」にも北水関連の記述がある。本研究では、この3点の資料から北水の松代での講義の様子を可能な限り明らかにする。

2. 松代藩における北水の足跡を知る資料

今回、調査した資料は、真田宝物館所蔵の「朝陽館漫筆」と「二十八宿之図」、国文学研究資料館所蔵の「北水先生口授胸中曆」の3点である。これらの資料の記述内容を他の資料と比較し、内容を精査する。

2.1 朝陽館漫筆(真田宝物館蔵)

朝陽館漫筆は松代藩の家老であった鎌原桐山(1774-1852)が著したものである。桐山が見聞した様々な事柄が記されている。5巻には、天文学者朝野北水についての記述があり、文化6年(1809)10月に北水が松代に滞在した際の様子を知ることができる。その一部を以下に引用する(図1)。

「十月江都の天文学者浅野北水なる物来たり、中町に滞留す。其教甚提徑にして、門に入て七ヶ日に皆傳すといふ。石城先生父子を始めとして、門人となる者十数人、又、難病の奇方、其外水を高き所へ引事、石をやわらかにする事、其他種々の奇方を知りて教授す。幣物の多少を問わず、望む者あれば教ゆと也。是も足跡天下に遍しと也。天文は誰に学びしやらず。其他は平賀源内に学びしといふ。義太夫本を著す。(中略)放蕩家なりと雖も、応対する所は温厚なりとぞ。又、天文の事を教ゆる時は、必ず袴を着す。但し、前垂の如く前の方ばかり襷ありて、後の



図1. 朝陽館漫筆(真田宝物館蔵)



図 2. 二十八宿之図 (真田宝物館蔵)

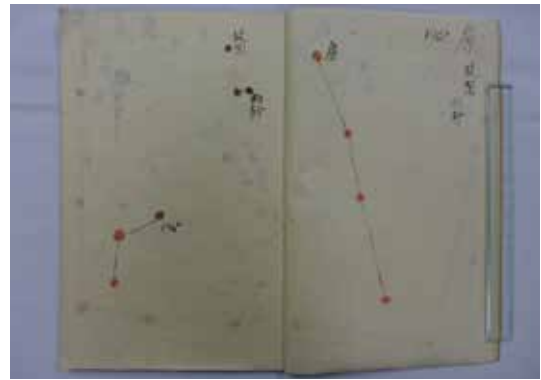


図 3. 二十八宿之図 (真田宝物館蔵) 二十八宿の房と心が記されている。

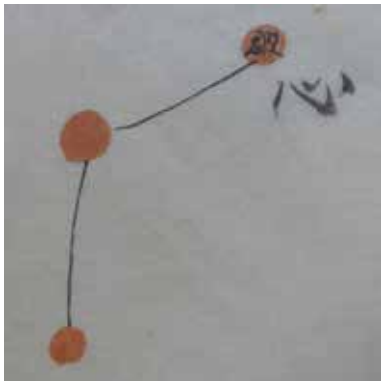


図 4. 二十八宿之図 (真田宝物館蔵) 破と記された星がある。

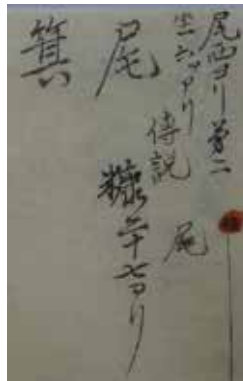


図 5. 二十八宿之図 (真田宝物館蔵) 糠の星の数が記されている。



図 6. 天体観測図集 (伊那市立高遠町図書館蔵)

方はなきもの也。客と對話の時放屁を忍べば気分障りあり許し給へとて遠慮なく放屁すと也。」

文中の石城先生は、松代藩士岡野石城 (1745-1830) のことであろう。金奉行、目付け役などを勤める傍ら、藩校で教授した。さらに、同資料 5 巻の石城先生の話という項にも、北水に関する記述がある。以下に引用する。

「石城先生曰すらんが石公の寶庫にあり瘡瘡除になると言傳ふ (中略) 先生の所持するは大きき徑り五分ばかり長さ七分ばかり也これは先生の手製也此法去々年城下へ來りし北水よりの傳授なり北水は源内の門人也。」

北水から教わった方法で、すらんが石をつくったことが記されている。また、すらんが石は、江戸時代にオランダから伝わった薬でスランガステーンや蛇頂石ともよばれる薬のことであろう。北水は天文以外のことも教えていたことがわかる。

2.2 二十八宿之図 (真田宝物館蔵)

松代文庫の印が押されている (図 2)。原田 (2012) によると、松代文庫は明治になり松代藩学校が発足した際に、真田家から貸与されたものである。すると、江戸時代には、本資料も真田家所蔵の物だったと考えられる。ただ、本資料がどのような経緯で真田家の所蔵となったかは不明である。

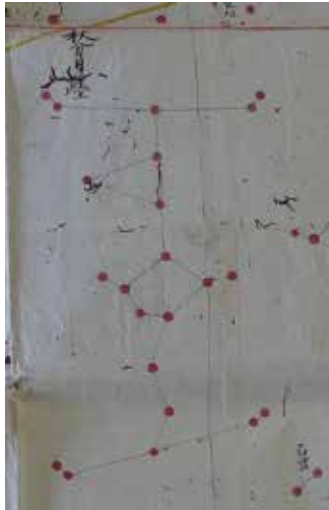
表紙には二十八宿之図とあるが、内容は「二十八宿之図」、「衆星図 全」、「以窺天鏡日月五星見図」の 3 つに

分けられる。以下、それぞれの内容について論じる。

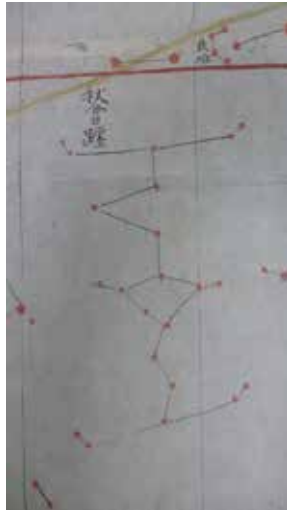
2.2.1 二十八宿之図

中国星座の中で重要な二十八宿の星と星座線が描かれている (図 3)。星は赤丸と黒丸で表され、赤丸の上に「破」と記されているものがある (図 4)。破が記されているのは、亢、心、尾、箕、斗、牛、女、虚、危、室、壁、奎、婁、胃、昂、畢、參、井、鬼、柳、星、張、翼、軫であり、ほぼ全ての星座に破が記されている。これらの星は、中国星座で重要な基準星である距星と思われたので、「天文成象」のものと比較した。「天文成象」は初代天文方である渋川春海がその息子昔尹とともに元禄 12 年 (1699) に作ったものである。江戸時代、「天文成象」をもとに多くの星図が作られた。また、北水関連資料とともに「天文成象」が残されていることが多く、講義の際に「天文成象」を使ったと推測される。比較した結果、奎、昂、畢、參、井以外の 19 星座では一致した。本来、距星は一つの二十八宿につき一つあるので、全ての宿に破の字が記されているべきであるが、本資料では、角や房などには記されていない。この理由は不明である。

また、星座線や星座名以外の記述もある。以下に挙げる。「尾西ヨリ第二坐六ツアリ 糠二十七アリ」 (図 5)。「畢、第二星八十星アリ」。「觜 三星ノ内口星十五アリ」。「鬼 積尸氣七十七アリ」。これらは望遠鏡で見える星の数であろう。最後のページには「赤ハ宿星 黒ハ從此星 赤口は



a. 天象研究改正之真図 (個人蔵)



b. 天象総星之図 (千葉市立郷土博物館蔵)



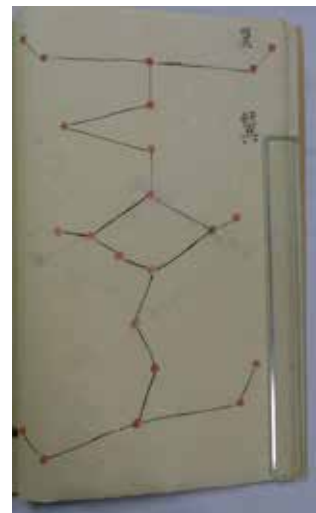
c. 天文成象 (高遠町図書館蔵)



e. 天文図 (さいたま市寄託)

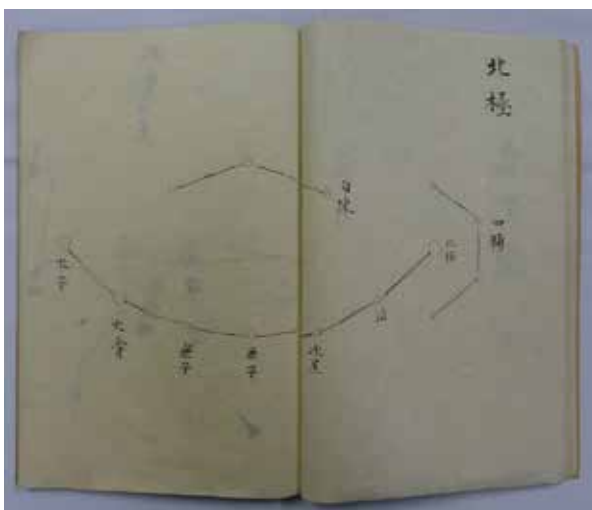


f. 天体観測図集 (高遠町図書館蔵)



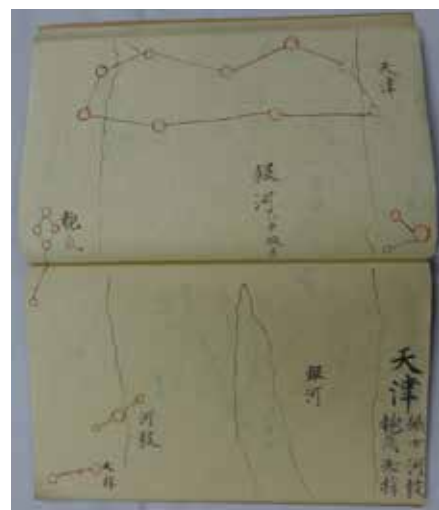
g. 二十八宿之図 (真田宝物館蔵)

図 7. 翼の比較



a. 北極に関する記述あり。

図 8. 二十八宿之図 (真田宝物館蔵) 衆星図全の部分



b. 銀河 (天の川) に関する記述あり。



図 9. 天体観測図集（高遠町図書館蔵）

附録星 破之字口傳」と記されている。

載っている星座と星座線の形は、翼を除けば、「天体観測図集」（高遠町図書館蔵石川家資料）と同じである（図 6）。この翼の形（図 7a）は、個人蔵の福王家関連資料である「天象研究改正之真図」（図 7-a）や千葉市立郷土博物館所蔵の「天象総星之図」と同じである（図 7-b）。どちらの図も北水の星図を写したもので、「天象研究改正之真図」は文化 11 年（1814）に、「天象総星之図」は文政 11 年（1828）につくられたものである。また、この翼の形は、先に紹介した「天文成象」とも近い（図 7-c）。一方、翼の形が「天体観測図集」と近いものは、北水の門人である待埜大梁が文政 4 年（1821）に作ったとされ



a. 太陽の図



b. 月の図

図 10. 二十八宿之図（真田宝物館蔵）以窺天鏡日月五星見図の部分

る「天文図」（さいたま市寄託稲垣田龍関連資料）である（図 7-e）。

渡辺・澤田（2011）によると、北水関連の星図の翼の形は 2 系統に分けられるという。ここで紹介した翼の形はこの 2 系統と一致する。

2.2.2 衆星図 全

二十八宿以外の星座の星と星座線が描かれている（図 8）。北極から始まり、大微垣、天市垣、紫微垣と続いている。内容は高遠町図書館蔵石川家資料の「天体観測図集」に近い（図 9）。北極付近や北斗の描き方、星座線の結び方は同じだが、星座の掲載順が異なる。また、「天体観測図集」には、三垣の記述は見られない。天の川の部分に「銀河は少微星」（図 8-b）、天市垣の車肆に「此星乱人不教示者也」などと記されている。

北水が講義の際に使ったと思われる、巨大星図が各地に残されている（渡辺・澤田 2011）。松代の講義でも星座について語ったであろう。その内容を写したものが、本資料だと推測される。

2.2.3 以窺天鏡日月五星見図

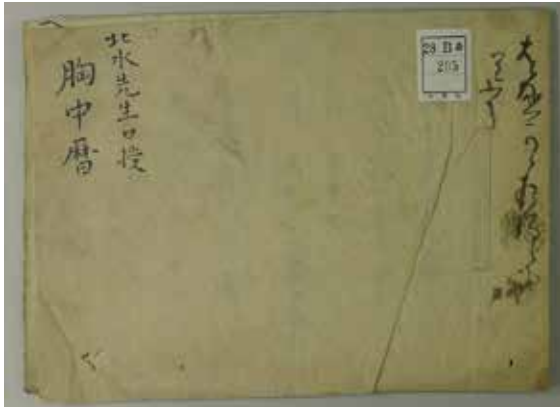
窺天鏡（望遠鏡）で見た、太陽、月、五星（惑星）の様子が図とともに記されている（図 10）。初めに赤く塗られた太陽の図があり、中には黒点が描かれている。次には、月の図があり、クレーターも記されている。太陽と月のどちらの図も実際の見え方とは大きく異なっており、実際の観測に基づいたスケッチではない。土星の輪と衛星、木星のガリレオ衛星についての記述もある。火星は赤く塗られ、ほぼ同じ内容が、飯田市立図書館所蔵市岡文書の中の「天学撮要」に見られる（図 11）。「天学撮要」の最後には、暗い星の見え方が記されている。

「二十八宿の内、觜の三星の内に小星十五あり。畢宿第二の星は十星あり。尾宿西より第二星は六つあり。鬼宿の内積尸気は七十七あり。箕宿の糠は七十二あり。銀河は微少の星集り白煉をする口。」

この記述は、「以窺天鏡日月五星見図」には無いが、先

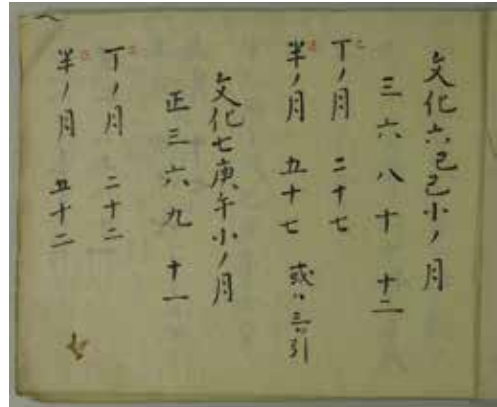


図 11. 「天学撮要」（飯田市立図書館所蔵市岡文書）



a. 表紙

図 12. 北水先生口授胸中曆（国文学研究資料館蔵）



b. 文化6年と7年の月の大小について記されている

に述べた「二十八宿之図」の内容とほぼ一致する。糠の星の数は七十二と二十七で異なるのと尾宿の記述がないことだけが異なる点である。

以上、3つの内容を北水関連の資料と比較した結果、以下のことが言える。「二十八宿之図」と「衆星図 全」については、高遠町図書館蔵石川家資料の北水関連資料と内容が同様であることから、北水関連の資料である可能性が高い。

「以窺天鏡日月五星見図」とほぼ同じ内容が記載されている「天学撮要」は北水関連の資料である（陶山 2017）。このことを踏まえると、「以窺天鏡日月五星見図」も北水関連の資料であると言えるだろう。同様の資料は各地に残されており、「明治前天文暦学・測量の書目辞典」によると、東北大林文庫と津市井田文庫に所蔵されている。

2.3 北水先生口授胸中曆（国文学研究資料館蔵）

本資料は、国文学研究資料館の信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書に所蔵されており、八田家の内方の文書である。伊勢町八田家は、江戸時代、松代藩の御用商人を務めていた。

資料の表紙に「北水先生口授胸中曆」とあり、北水との関連が明らかである（図12）。最初に、文化6年(1809)から8年(1811)まで大小の月について記されている。「朝陽館漫筆」によると、文化6年に、北水が松代で講義を行っている。この講義の際に、その年（文化6年）と向こう2年の暦について語ったのだと推測される。

その後、月の大小、十二支、十干と続き、暦の下段に記される吉凶に関すること（五墓日や天下狼藉など）など暦について様々な事柄について記されている。

同様の内容が北水関連の資料である「暦日早繰集」の中に記されている。暦日早繰集は高遠町図書館蔵石川家資料やさいたま市寄託の稲垣田龍関連資料などに所蔵され、各地に残されている。

本資料の最後には岡埴元禮蔵と記されている。これは、松代藩士、岡野弥右衛門元礼であろう。岡野石城の息子で

あり、郡奉行や町奉行を歴任し、藩校で教授もしている。また、彼の娘ムメは八田家五代目嘉助知則に嫁いでおり、八田家とのつながりがある（信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その5））。

「朝陽館漫筆」には石城先生父子が北水の講義を聴いたと記されている。この父子は、岡野石城と岡野弥右衛門のことだと思われる。弥右衛門が講義で聴いた内容を書き写し、それが八田家に伝わったのであろう。

3. まとめ：朝野北水の松代藩における講義内容

以上の3つの資料から松代藩における朝野北水の講義の様子を推測する。

北水は文化6年10月に松代を訪れ講義を行った。講義には、岡野石城や岡野弥右衛門など様々な人物が参加した。

「北水先生口授胸中曆」は弥右衛門が講義の内容を書き写したものであると思われる。資料から推察できる講義内容は以下の項目である。

- ・大小の月や吉凶に関することなど、暦に関すること。
- ・中国星座の形や位置について。望遠鏡で見た星団や惑星などの見え方について。
- ・天文以外の様々な奇方について。

以上の内容は、各地に残される北水関連の資料内容と整合的である。

これまでの調査では、北水関連の資料は商家などの家に残されていることが多かったが、今回の調査で、大名家である真田家にも残されていることがわかった。様々な立場の人々が北水の講義を聴いたことをうかがい知ることができた。

長野県内には、北水に関する資料は他にも残されていると思われる。これらの資料を精査し、互いに比較することで、北水の講義内容とその影響、ひいては、江戸時代の信州における天文学の知識の広がりを明らかにしていきたい。

4. 謝辞

本研究を行うにあたり、飯田市立図書館、国文学研究資料館、京都大学花山天文台、真田宝物館、伊那市立高遠町図書館、千葉市立郷土博物館、さいたま市アーカイブズセンターには貴重な資料を閲覧させていただいた。以上の方々に記して厚く御礼申し上げる。

5. 引用文献

- 北信郷土叢書刊行会「北信郷土叢書 第一巻」1935年
陶山徹(2017)「信州における天文遊歴家朝野北水の足跡」長野市立博物館紀要18号(自然系),
中村士(2007)「遊歴の啓蒙天文家 朝野北水」, 東洋研究, 第163号, p. 1-30
渡辺誠・澤田平(2011)江戸時代の天文遊歴家, 朝野北水の著作と普及内容, 星座帳について, 富山市科学博物館研究報告, 第34号, p. 95-116
原田和彦(2012)「真田家における典籍の集積と流出」, 松代, 第23号, p. 1-35
長野市立博物館「星を伝え歩いた男 朝野北水〜江戸時代の星への興味〜」2017年
国文学研究資料館「信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録(その5)」2013年
国書人名辞典第一巻 あーか, 岩波書店, 1993, p568
長野市誌第4巻, 歴史編, 近世二, 2004, 長野市誌編さん委員会, 長野市
中村士・伊藤節子(2006)「明治前日本天文暦学・測量の書目辞典」, 第一書房

大型恐竜ニューデザインコンテストの開催とその経過について（事業報告）

成田 健*・畠山幸司**・北澤宗一郎**

Ken Narita*, Koji Hatakeyama** and Soichiro Kitazawa

* 長野市立博物館 〒381-2122 長野県長野市小島田町 1414

** 信州新町化石博物館 〒381-2404 長野県長野市信州新町上条 87-1

要旨：長野市立博物館分館の信州新町化石博物館には、駐車場に全長 32 メートルの竜脚類ディプロドクスの実物大復元模型が 2009 年春より設置されている。以後 10 年が経過し、塗装の劣化や必要な修理箇所があることから、2019 年度（令和元年度）に塗装工事をおこなった。その際に、広く関心を持ってもらうために恐竜のデザインを公募し、採用作品をもとに塗装を進めたので、事業報告として取りまとめる。

キーワード：信州新町化石博物館 ディプロドクス 復元模型 塗装 デザインコンテスト

はじめに

ディプロドクスの実物大復元模型が信州新町化石博物館に設置されたのは 2009 年（平成 21 年）4 月のことである。新規製作ではなく、2006 年（平成 18 年）9 月 30 日に閉館したユネスコ村 大恐竜探検館（埼玉県所沢市）に設置してあったものを、2009 年 3 月に所有者である西武鉄道と信州新町（現在は長野市）が無償譲渡の契約を締結して移設したものである。同年 3 月 18 日に現地に解体し、元の製作者のある松本市内へ一度移送して補修・塗装の後、同年 4 月 6 日に信州新町へ輸送、4 月 9 日までの 4 日間で設置を行った（図 1）。

4 月 21 日にはオープニングセレモニーとして関係者によるテープカット等が行われるとともに、新聞などでも周知が広く行われたため、入館者数が例年の 1.5 倍となり、非常ににぎやかな年となった（図 2）。

そこから約 10 年が経過し、ディプロドクス本体の塗料の劣化や一部破損箇所等が確認されることから、地域からも心配の声が上っていたため、2018 年（平成 30 年）度に合併特例交付金の申請を行い、翌年度の予算に計上して実行することができた。以下その経過を報告する。

デザインコンテスト開催に向けて

平成 31 年度（令和元年度）予算が確定し、合併特例交付金の交付決定が出された 4 月下旬になるが、リニューアルの塗装実施にあたり広くデザインを募集して作品を採用する案を検討した。同様な事業としては、愛知県豊橋市の豊橋市自然史博物館の事例がある。豊橋市自然史博物館は豊橋総合動植物公園の中に位置し、博物館の周囲には野外恐竜ランドの名称で恐竜の実物大復元模型が 7 体設置されている。平成 20 年（2008 年）の記念シンポジウム報告書にはブラキオサウルスのデザインの募集から修繕までの様子が掲載されている。さらに平成 30 年 7 月から 9 月末にかけて、



図1 ディプロドクス復元模型設置時の様子（2009年4月6日）



図2 ディプロドクス復元模型設置時の記念イベントの様子（2009年4月21日）

再びブラキオサウルスの塗装に係るデザイン募集を行い、平成 31 年 1 月～3 月に塗装を実施している（豊橋市自然史博物館、2019）ため、今回は豊橋市自然史博物館の事例を参考に、デザインの募集方法を検討した。

募集に当たっては長野市の信州新町地区を知ってもらうことや足を運んでもらうことも一つの目的とし、当初は応募用紙を信州新町化石博物館のみで配布することも検討したが、周知の方法やどこまで告知できるのかを考えて、WEB上で応募用紙の配布とすることとした。また、デザインの応募と共に愛称の募集についても実施すべきという意見が出たことから、この事業

ではデザインと愛称募集の二本立てで進めることとした。キャラクターデザインの話も上がったが、まずはデザインを決定すること優先し、キャラクターデザインについては翌年以降の事業として検討する方向としている。

交付決定後は、地元の方からの声も大切にし、地域内の住民自治協議会、観光協会、地域イベントの実行委員会などでも説明を行い、地域内でもイベントの理解を深めることができた。

応募用紙

募集のために作成した応募用紙は以下の通りである(図3)。館内ではこれを印刷し、来館者が自由に持ち帰れるようにした。また、館のホームページ上でもこれと同じ物をPDF形式でダウンロードできるようにした。

デザインコンテストの応募用紙の上半分は応募の注意点と作品が受賞した際に連絡が取れるように氏名・住所等の情報を記入する欄とした。下半分は『ディプロドクスの復元模型を横から見たトレース図を載せ、これに色鉛筆で色を塗ってもらうこととした。また、復元模型は博物館の展示の一つでもあるため、デザインの理由を書く欄を設け、作者がデザインに込めた考えや思いを記入してもらうこととした。

デザイン作品展では用紙を半分に切り、下半分のデザイン部分のみを展示した。

愛称の応募用紙はハガキサイズを想定し、愛称と連絡先等を記入する欄を設けた。

告知方法

6月13日(木)午後1時30分から 長野市の定例記者会見でデザインコンテストの告知並びに企画展の案内を行った。

また、6月18日(火)～7月5日(金)の期間で、長野市役所の第一庁舎と第二庁舎の連絡通路において、夏の企画展の紹介とともに、ディプロドクスの企画展・作品募集の内容を展示紹介した。

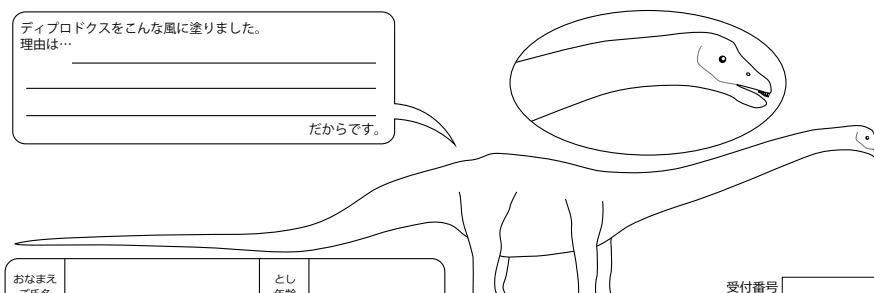
応募状況

募集開始を6月29日(土)、締め切りを9月1日(日)(郵送は9月1日消印有効)とした。

応募数はデザイン275点、愛称160点があった。周知期間が短かったが、夏休み期間中に団体で来館した方にも応募してもらうなど、多くの方に応募していただいた。デザイン応募者には受領ハガキを手渡しもしくは送付した。応募者の特典として、このハガキでデザイン作品展期間中(9月22日～11月24日)に一度無料で入館できることとした。(同伴の家族は2割引とした。)

デザイン応募者内訳

デザイン応募者は80%が長野市内在住者となった。年齢としては小学生が多く67%、未就学児・中学生がそれぞれ13%前後となり、90%以上を占める結果となった(表1)。

信州新町化石博物館 恐竜ニューデザインプロジェクト デザインコンテスト応募用紙			
下記の事項、ディプロドクスのデザインの彩色とその理由を記入して、9月1日(日)までに信州新町化石博物館へご持参または、ご送付ください(当日消印有効)。			
おなまえ ご氏名			とし 年齢
じゅうしょ 住所			
でんわ 電話			
9月21日(土)～11月24日(日)のデザイン作品展は点線より下を切り取って展示します。 受付番号			
ディプロドクスをこんな風に塗りました。 理由は… _____ _____ _____ だからです。 			
おなまえ ご氏名		とし 年齢	受付番号

恐竜ニューデザインプロジェクト 愛称募集 応募用紙	
応募期間 6月29日～9月1日まで	
かわいい名前を付けてね	
愛称は 	
です。	
おなまえ ご氏名	とし 年齢
じゅうしょ 住所	
でんわ 電話	
信州新町化石博物館 電話 026-262-3500	

図3 デザインコンテスト・愛称応募用紙

表1. デザイン応募者内訳

地域	人数	割合	年齢	人数	割合
市内	222	80.7%	5歳以下	36	13.2%
県内	42	15.3%	6～12歳	183	67.0%
県外	11	4.0%	13～15歳	34	12.5%
合計	275	100.0%	16～22歳	0	0.0%
			23～29歳	2	0.7%
			30～39歳	8	2.9%
			40～49歳	6	2.2%
			50～59歳	2	0.7%
			60～69歳	2	0.7%
			合計	273	100.0%

愛称応募者内訳

愛称応募者についても82%が長野市内在住者となり。年齢としては小学生が多く78.8%、未就学児が16%となり、およそ95%を占める結果となった。

表2 愛称応募者内訳

住所	人数	%	年齢	人数	割合
市内	131	82.4%	5歳以下	25	16.0%
県内	26	16.4%	6～12歳	123	78.8%
県外	2	1.3%	13～15歳	2	1.3%
合計	159	100.0%	16～22歳	0	0.0%
			23～29歳	0	0.0%
			30～39歳	2	1.3%
			40～49歳	1	0.6%
			50～59歳	1	0.6%
			60～69歳	2	1.3%
			合計	156	100.0%

審査会

審査会は9月10日（火）に長野市役所信州新町支所2階大会議室にて行った（図4）。審査員は以下の通りである。

真鍋 真氏（国立科学博物館）、スズキサトル氏（イラストレーター 日本理科美術協会）、丸山行雄氏（信州新町住民自治協議会長）、黒岩伸男氏（信州新町観光協会会長）、小澤忠明氏（信州新町美術館・化石博物館友の会長）、長野市立博物館長、信州新町美術



図4 審査会の様子（9月10日 信州新町支所）

館長）

受賞者

審査会の結果は以下の通りである（各受賞作品は図5）。

ディプロドクスデザイン受賞者

○最優秀賞	伊藤 智洋
○真鍋賞	宮沢 ほのか
○日本理科美術協会賞	渡辺 志帆
○信州新町住民自治協議会長賞	小林 日和
○信州新町観光協会会長賞	平林 薫
○信州新町美術館	
・化石博物館友の会長賞	唐沢 与範
○信州新町美術館	
・化石博物館長賞	松尾 佳々里
○市立博物館長賞	所 わかな

愛称は「でいぷろん」に

作品の中で多かったのが、ディプロ（くん・ちゃん）、でいぷろん（ディプロン）、ディプ（くん・ちゃん）、ディップ（くん、ちゃん）などがあげられたが、中からでいぷろんを選考した。選考理由は雄雌関係無く呼べる名前であること、ひらがな表記に親しみが感じられることなどが挙げられた。

デザインの決定

最優秀作品のデザインが決定したことを受け、実際に塗装するに当たっての色の調整を、塗装を請け負う業者とともにに行った。応募された色鉛筆のデザインと復元模型に塗られるペンキでの塗装では見た目が大きく異なるため、応募作品の考え方を損なわないように配慮しながらPC上で数点の色見本を作成、審査員の国立科学博物館 真鍋 真博士、デザイン作成者の伊藤智洋さんにも確認いただき了承を得ることができた。

デザイン作品展の開催

9月24日（金）～11月24日（日）の期間で、信州新町化石博物館企画展示室にて応募作品を全て展示した（図6）。

恐竜の塗装

10月3日から、恐竜塗装の工事を開始した。足場を組み、ネットによって覆われた後に洗浄・一部修繕が行われ、下地塗りから全身の塗装の後に、模様の部分の塗装に入った。

博物館としては、部分的でも良いので、恐竜塗装の体験の機会を業者をお願いした。天候によって作業できる日が限られるためになかなか決定できなかった



図6 恐竜デザイン作品展（信州新町化石博物館企画展示室）



図8



図9



図10

図8～10 信州新町小学校児童による塗装体験 2019年10月16日～17日



図11 塗装工事が完了した「でいぷろん」 2019年10月30日

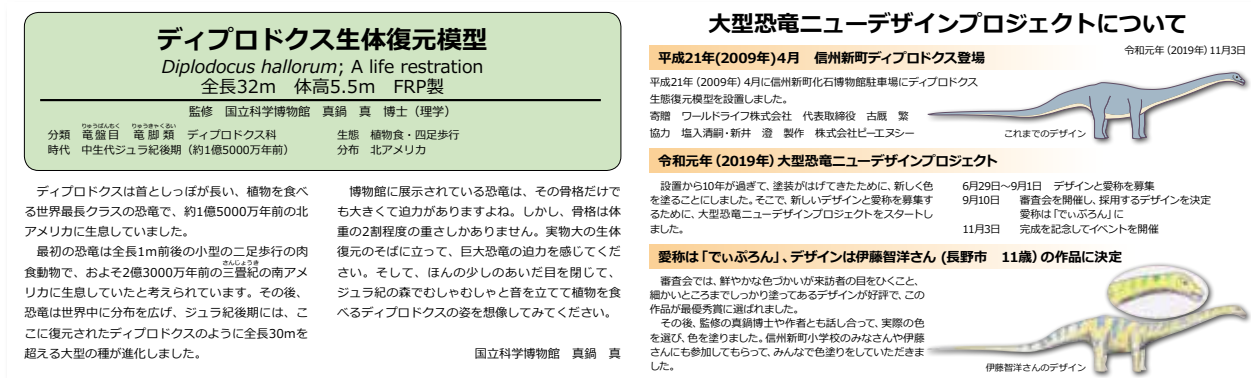


図12 説明板の内容

が、10月中旬に時間を確保していただいた。そこで急遽地元の信州新町小学校と下記の通り塗装体験を行った。

10月16日 信州新町小学校1,3,6年生 計38名

10月17日 信州新町小学校2,4年生 計32名

一人一人としては短い時間ではあるが、貴重な体験になったとの感想をいただいている。

10月25日 塗装工事完了

10月31日 記念説明看板設置 (図12)

ニューデザイン記念イベント

ニューデザインの塗装工事が終了し、一般の方へのお披露目も含めた記念イベントを11月3日に、記念講演会を4日に開催した。

ニューデザイン記念イベント

日 時 11月3日 午前10時

会 場 信州新町化石博物館 駐車場

内 容 表彰式、説明看板除幕式、記念撮影

参加者 来賓7名、受賞者7名、博物館スタッフ9名、サポート4名、受賞者関係者・ギャラリー40名、計67名

記念講演会

日 時 11月4日 午後1時30分～

会 場 信州新町支所3階 ホール

講 師 国立科学博物館 真鍋 真博士

演 題 「でいぶろん」とはじめる恐竜学入門

共 催 信州新町公民館

参加者 一般82名、博物館スタッフ7名、計89名 (図13)

例年この時期に開催する地元のイベント「信州新町フェア」とも情報交換を行い協力体制をとった。具体的な取り組みとしては、①「信州新町フェア」の告知広告に博物館のイベントを掲載していただく、②「信州新町フェア」開催中の地域内イベントで博物館関連

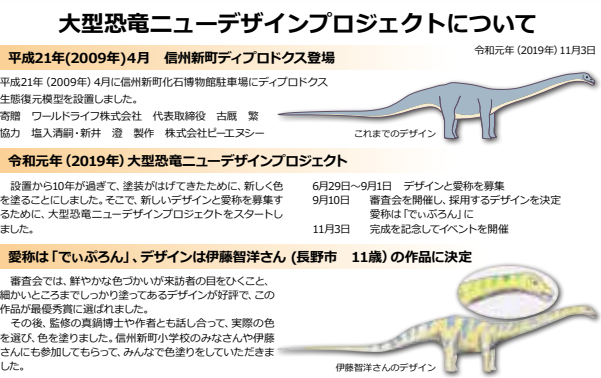


図13 記念講演会の様子 (令和元年11月4日)



図14 ミュゼ蔵の様子 (令和元年11月4日)

施設へ足を延ばしてもらう、③デザインコンテストの応募者が信州新町フェアの会場で特典が受けられるようにする、等である。

しかし、フェアの直前に長野県をはじめ大きな被害をもたらした台風19号の影響で中止となったイベントもあった。

11/2-11/16 ニューデザイン記念展

長野市立博物館分館のミュゼ蔵では、記念イベントにあわせて、ディプロドクスの紹介、デザインから塗装までの経過の紹介を行った。また、期間中はワークショップも下記の内容で、記念展開催期間中に行っ

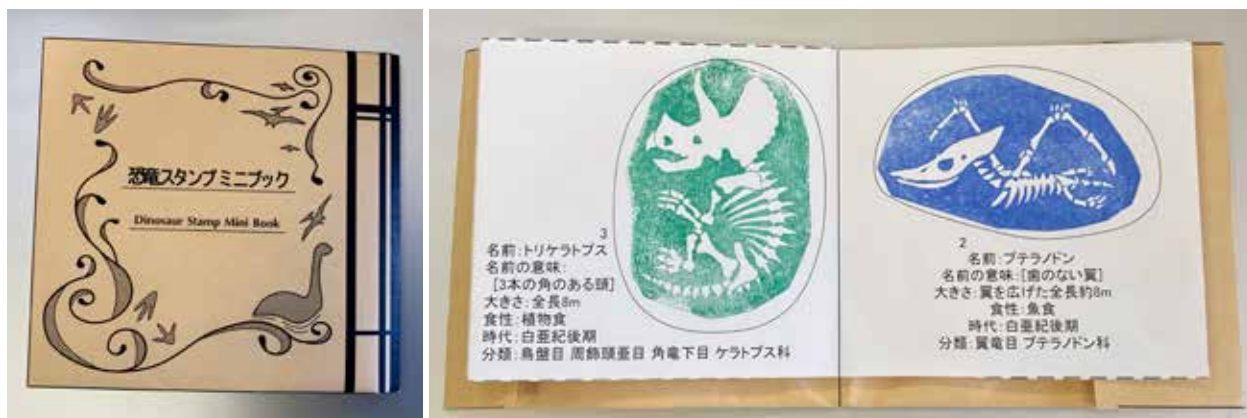


図15 恐竜ミニブック 消しゴムはんこを押して、ミニブックを完成させる。



図16 手のひら恐竜をつくろう。骨格を型押しした粘土に、骨の部分白色で着色する。

た。(図14)

- ・恐竜ミニbook製作 (図15)
- ・手のひら恐竜を作ろう (図16)

広報活動

この大型恐竜ニューデザインコンテストに関しては、デザイン募集から新聞各紙に記事を掲載していただき周知を図ったので、記事一覧を掲載する(表3～4)。

表3 連載記事 長野市民新聞 本館・戸隠・新町をつなぐ博物館でサイエンス(春から隔週で連載 全19回 関連したものを抜粋)

no.06 2019.06.06	信州新町の「巨大恐竜」 実物大模型を体感す 全長32メートルディプロドクス
no.07 2019.06.20	ディプロドクスの復元模型 恐竜のデザイン募集 体の色や模様、愛称も
no.13 2019.09.05	恐竜復元模型の塗り替え 多彩なデザイン251点 審査経て11月に披露へ
no.16 2019.10.17	恐竜模型お色直し 黄色に青のしまへ デザイン応募全作品展示
no.17 2019.10.31	でいぶろん完成イベント 表彰式や記念講演 3,4日恐竜に親しんで

no.18 2019.11.07	「でいぶろん」のお披露目 恐竜の前で授賞式 信州新町のシンボルに
---------------------	----------------------------------

表4 新聞掲載記事のとりまとめ

2019.07.06	恐竜復元新デザインを 信州新町化石博物館がコンテスト
2019.08.03	恐竜の化石100点展示 信州新町で来月1日まで 「竜脚類」の骨格など
2019.10.01	信州新町化石博物館の恐竜模型 愛称と塗装案が決定
2019.10.21	地元児童 恐竜色塗り 信州新町化石博物館で
2019.11.07	恐竜小6のデザインで装い新た 信州新町化石博物館 ディプロドクスの模型
2019.11.07	信州新町で講演会 クイズも交え恐竜を説明

おわりに

採用したデザインをもとに新たに塗装したディプロドクスは非常に明るいカラーリングとなり、地区の方々にも比較的に好評を得ている。愛称も「でいぶろん」と呼びやすく親しみやすい名称となり、さらに関心が高まることを期待する。塗装完了後には駐車場で記念撮影する姿も見られ、2009年に設置した時のように、再び関心を高めることができたと考える。また、募集者は8割が長野市内の在住者であるが、合併地区を改めて知ってもらうという合併特例交付金の趣旨に合う事業になったと考える。

謝辞

国立科学博物館 真鍋真博士には、デザイン審査から監修、記念講演会までご協力いただいた。デザイン審査については、日本理科美術協会員 スズキサトル氏や長野市信州新町地区の方々に御協力いただいた。

豊橋市自然史博物館 吉川博章氏には恐竜模型塗装に係る手順・方法・事業の進め方など大変多くのことを教示していただいた。

信州新町地区の各団体ならびに関係者各位には趣旨をご理解いただき、イベント開催など様々な面でご協力いただいた。塗装工事を施工した株式会社霜鳥には塗装体験において大変配慮していただいた。記して御礼申し上げます。

参考文献

豊橋市自然史博物館（2008） 豊橋市自然史博物館開館20周年記念シンポジウム「復元一恐竜のすがたにせまる」報告書、40p. 豊橋市自然史博物館
豊橋市自然史博物館（2019）豊橋市自然史博物館年報、no.31, 72p. 豊橋市自然史博物館

長野市立博物館 紀 要

第21号 (自然系)

発 行 日 令和2年3月31日

編集・発行 長野市立博物館

〒381-2212 長野市小島田町1414番地 川中島古戦場史跡公園

電話番号 026-284-9011 FAX番号 026-284-9012

ホームページ <https://www.city.nagano.nagano.jp/museum/>

電子メール museum@city.nagano.lg.jp
